

新市建設計画を中心に据えるべきです

第5次総合計画(改訂版)のあり方で論議

20日、総務常任委員会が開かれ、第5次総合計画(改訂版)について、議論しました。10日の委員会で、「将来都市像」に議論が集中したことから、この日は最初に行政側から、「将来都市像の検討経緯について」説明されました。

5次総とはいったい何なのか

説明後、私は最初に次のように発言しました。

将来都市像の検討経緯の説明がありました。問題は、今度改訂する5次総とはいったい何なのかということです。

私たちは合併に当たって、真剣に合併協議を行い、新市建設計画にまとめ上げました。合併後少なくとも10年

間は、この計画に基づいて行政運営をしていかなければなりません。

5次総は、今後8年間の上越市の最上位計画です。新市建設計画の期間と重なります。ならば、5次総は新市建設計画と一体のものでなければなりません。しかし提案された5次総改定案は、そうなっていない。「計画改訂の趣旨」のこのことをきちんと述べるべきです。

もちろん状況変化で新市建設計画を発展させる必要も出てくるでしょう。その場合、どこをどのように発展させたかの説明が必要です。

田村恒夫議員や市川文一議員、栗田英明議員らからも、「合併協定を重視すべきだ」「将来都市像を変える必要はない」などの発言が続きました。

将来都市像を変える必然性がない

話が「将来都市像」に移ってきましたので、私は再度発言を求め、次のように述べました。

新市建設計画では、「海に山に大地になりわいと文化あふれる 共生都

市上越」としまし

た。合併2年半でこれが実現したわけではありません。緒についたばかりです。今、新市建設計画で掲げた将来都市像を大幅に変えなければならぬ必然性は見当たりません。

9月議会ではなく12月議会に

最後に発言した吉田侃議員は、「このまま9月議会に提案するのではなく、十分議論を尽くして練り上げ、12月議会など先に延ばすべきではないか」と主張しましたが、私も「その通りだ」と思いました。

吉田議員の発言

言を受け山岸行則議長が、「期限が切られているものでもないので、再検討して出し直すべき」とまとめました。



オニヤンマ 6日 黒倉山



信越トレイルのブナ林

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2007年8月26日 155
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832